

医薬品卸が繋ぐ医療の絆



3か国会議で討議する中国医薬商業協会(左)と韓国医薬品都売協会、日本卸連(右)

2年ごとに開催されるIFPW(国際医薬品卸連盟)第19回総会は、10月22日、23日の日程で、メキシコ合衆国カンクンで開催された。会場となったJWマリオットカンクンリゾート&スパは、カリブ海に面した世界有数のビーチリゾート地にあり、付近には数多くのマヤ遺跡が残されている。総会前夜にはホテル内において顔合せの夕食会(結団式)が行われ、中北馨介団長から、「参加者同士の交友を深め、大会の成果と期間中の安全を願います」との挨拶があった。

総会初日は1時間ほど遅れての開会となり、IFPWプレジデントのマーク・パリッシュ氏、大会会長のマリア・ルイザ・マキアベロー氏、州知事のロベルト・ボルク氏らの開会挨拶のあと、ビジネスプログラムが始まった。

ドイツサンドのジェフ・ジョージ氏は、世界各地での同社のバイオシミラー医薬品の取り組みについて説明し、増収に大きく貢献していると報告した。ジェネリック医薬品については、医療費削減の観点から世界市場では年率7%の伸長を示し更に拡大すること、日本においては、政府の数量目標である30%を超えまだ大きく伸びることが期待できる、と述べた。

続いて3名のIMSヘルス幹部から、担当エリア

の医薬品市場を中心とした講演があり、ペア・トロエイン氏は「欧州では医薬品支出を抑えるため、一番価格の安い国の価格に合わせる傾向にある。その一方では、価格差のためイタリアで買ってドイツに売るといったようなことも起きている。そのことにより地域により薬が不足する事態も起きている」と報告した。

北中南米担当のヘクター・ベール氏は、「ラテンアメリカのマーケットの中で45%のシェアを持つブラジルとアルゼンチンにおいて非常な伸びを示しているが、この要因は中流階級の増加や慢性疾患の増加によるものである。一方では医療費コストの面からジェネリック医薬品も拡大している」と報告した。

午前中の最後は、1972年10月に発生した、昼夜の温度差80度というアンデス山中に墜落した旅客機の乗客が72日後に救出された時の生存者の一人であるグルターボ・ゼルビア氏による「極限状態における意思決定」についての講演があった。当時は有名な事件として聞いていたが生存者から生の話を聞くことができるとは思っていなかった。

午後のメインは医薬品のグローバル展望について、ウォルグリーン社、マッケンソン社など世界の流通企業の担当者から各市場の変化と自社の対

応などについての報告があった。

その夜は、砂浜に続く Seaside Garden において、IFPW 主催のウエルカムレセプションが行われ、異国ムード漂うプールサイドでの夕食を楽しんだ。

総会 2 日目は、医薬品の開発についてマーク・プロトキン氏、投資アナリストの観点から JP モルガンのダミアン・グリーンバーグ氏の講演、その後、製薬メーカー 4 社の代表者から自社の戦略などについての報告があった。

午前中の最後は、スペシャリティー流通と医薬品の未来について、日本の医薬品卸を代表して眞鍋雅信氏 (株)ほくやく社長) のほか、アレサンドロ・モントーゾ氏 (オンコプロド社)、ジェームス・フレイリー氏 (アメリソースバーゲン社) 3 氏の講演が行われた。眞鍋氏は、特殊医薬品の管理や取



総会の開会を待つ日本からの参加者たち

扱について厳しいルールがあるものの、日本の卸は慣れており、一方では、このルールのお陰で偽薬に悩まされないと述べた。日本の高額療養費制度にもふれ、負担がこの10年で倍増し2009年では2兆円に到達したことを紹介した。

午後には、マーク・パリッシュ氏からIFPWの活動と財務報告があり、3年間にわたり理事を務められた長谷川卓郎氏 (株)エバルス社長) の退任と、中北馨介氏 (中北薬品(株)社長) の理事就任の報告があった。

総会の最後は、IMSヘルス社のダグ・ロング氏の司会によるIFPW理事7名による「流通の未来」についてのパネルディスカッションが行われた。日本を代表して長谷川卓郎氏は、東日本大震災の際にIFPWからの支援があったことに謝辞を述べ、日本の医薬品卸が安定供給の維持に全力を尽くし、その重要性が再認識されたと紹介した。一方、ディスカッションでは、世界で発生している医薬品の不足問題や、医薬品卸の薬局統合についても話題となった。

また、次回2014年のIFPW総会は中国・北京で開催されることが発表された。

全てのプログラムが終了した夜は、初日同様、IFPW主催のガラディナーがあり、参加者は、民族舞踊など華やかな舞台を囲みカンクン最後の夜を楽しんだ。

なお、総会 2 日目の朝、日本卸連、中国医薬商業協会、韓国医薬品都売協会の代表者による、今後のアジアにおける医薬品流通フォーラムについての検討会議を行い、新たなフォーラム名称や2013年の東京開催などで合意した。



マヤの神殿が集まるトゥルム遺跡散策